

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県名【 滋賀県 】 学校名【 滋賀県立野洲養護学校 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	高等部生徒1年生～3年生（肢体不自由）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 体育 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	・全国障害者スポーツ大会のオープン競技であるハンドアーチェリーを経験する。 ・全国大会で開催されている競技に触れ、運動する習慣を身に付ける機会にする。
5 取組内容	<ハンドアーチェリー> ハンドアーチェリーに取り組む上で、①ハサス（ハンドアーチェリーの矢を飛ばす補助具）の使い方を学習する、②大きな的を利用して試合、③正規の的を使って試合に分けて学習した。 ①では、ハサスの使い方の手本を見せて、一人ずつ矢を飛ばして体験した。 ②では、正規の的を使う前に、ターゲットゴルフの的を利用して大きな的に飛ばす練習に取り組んだ。的の中に紙を敷き、命中すると音が鳴るようにした。 ③では、正規の的を利用して取り組んだ。この中でも的に命中すれば得点、的の位置に応じて得点、と段階的に設定した。また、個人戦とチーム戦を設定し、生徒一人ひとりが主役になり取り組むことや、チーム戦で仲間と協力して活動する設定をした。
6 主な成果	①の練習では、ハサスを押すと矢が飛び様子を見て興味を持つ姿が見られた。順番に体験し道具を使うことで物を飛ばす経験をできたことを喜ぶ様子が見られた。 ②の練習では、的に入ると喜ぶ生徒の姿が見られた。チーム戦で仲間との取り組みを経験し、個人戦で自分の活動の成果を感じられるようにした。 ③の練習では、生徒自身で飛ばした矢が的に当たると、体を揺らし

	て喜ぶ生徒や、チーム戦で勝利して仲間同士で喜びを共有しあう様子が見られた。 全体を通して、最初は、ハンドアーチェリーと聞いてもどんな競技なのかわからない様子だったが、教師が手本を見せると興味を持つ生徒がいた。ハサスの使い方の手本を何度か見て取り組むことで、矢を飛ばしてその矢を目で追うことができるようになった。得点を決めると腕を挙げて喜び、笑顔を見せていた。 成果としては、生徒自身が道具に働きかけ矢を飛ばしゲームに取り組むことで、今までにない経験ができた。意欲を持って活動することができた。知的障害生徒との合同学習でハンドアーチェリーに取り組み、交流をすることもできた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	競技に取り組む上で、3段階に分けて活動した。 ①ハサス（ハンドアーチェリーの矢を飛ばす補助具）の使い方。 ②大きな的を利用して試合。（個人戦、チーム戦） ③正規の的を使って試合。（個人戦、チーム戦）
8主な課題等	今年度は、急きょこの学習を計画に取り入れたため、実施回数や対象生徒が少なく、ハンドアーチェリー競技を広めることは難しかった。今後は、計画的に学習を組み、知的障害生徒や他学部の児童生徒、他校の生徒等との交流も取り入れつつ学習できると良い。
9来年度以降 の実施予定	体育での年間計画に組み込んで、今年度よりも発展的に実施していきたい。



ハサスにしっかりと視線を向け取り組む生徒



意欲的にハサスに向かい取り組む生徒



大きな的に変えて的に狙う練習の様子



知的障害生徒との交流にて
生徒が一人で発射している様子